



閉校記念式典では、生徒や保護者、旧教職員などおよそ240人が花輪第二中学校の体育館に集まりました。



73年の歴史に感謝 二中祭・閉校記念式典

11月2日に花輪第二中学校で「二中祭」と「閉校記念式典」が行われました。

花輪第二中学校は来年度から花輪第一中学校との統合が決まっております、花輪第二中学校としての学校祭は今回の開催で最後となります。

二中祭では、書道・美術作品の展示のほか、学習発表会や劇などが披露され、会場を盛り上げました。3年生による劇は、ある学校の飼育係と、そこで飼育されている鶏の親子をテーマに、友情や家族の絆を表現したもので、会場からは大きな拍手が巻き起こりました。

閉校記念式典実行委員会の児玉健司委員長は、「感謝の気持ちと言葉では言い表せない。73年の歴史を忘れない」と母校への感謝を述べました。

その後、過去の写真のスライドショーや生徒によるクイズなどで、歴史と伝統を振り返りました。

最後には、生徒が校訓である「尚志」と書かれた衣装を身にまとい、二中ソーランと合唱を披露した後、「73年のキセキをありがとう。未来へつなげ二中魂」とさらなる成長を誓いました。

鹿角音楽祭

11月3日に「鹿角音楽祭」が文化の杜交流館コモッセ文化ホールで行われました。

花輪第二中学校の琴の演奏で幕が開け、第一部では合唱や器楽が、第二部ではバンドやミュージックパフォーマンスが行われました。

市内小中学校の代表それぞれが合唱や演奏を披露し、観客はその美しい音色に聞き入っていました。



子ども人権デーの集い

子どもたちに思いやりの気持ちや命の大切さなどについて考えてもらおうと、11月5日に八幡平中学校で「子ども人権デーの集い」が開催されました。

小学生人権標語コンテストと中学生人権作文コンテストの優秀作品の発表と表彰、感想発表などが行われました。

人権作文コンテストで奨励賞を受賞した八幡平中学校2年成田采生さんは、「言葉の力」と題した作文で、「言葉の力は大きい。言葉一つで変わる」などと発表しました。



池田さんの秋田紅あかり 農林水産大臣賞を受賞

十和田錦木の果樹農家、池田貴宏さんが第142回秋田県種苗交換会において、「秋田紅あかり」で農林水産大臣賞を受賞しました。

池田果樹園では、父・哲雄さんが秋田紅あかりの生産をはじめ、貴宏さんは3年前に哲雄さんから一部農地を引き継ぎ、果樹の生産を行ってきました。秋田紅あかりは、酸味が少なく甘い口当たりが特徴的なりんごで、幼い頃からこのりんごを食べてきた貴宏

さんにとって、特別なりんごと話します。

農林水産大臣賞を受賞して貴宏さんは、「夢のような感覚で、非常に驚きました。父がずっと作ってきたりんごが、素晴らしいものだったことが、受賞の大きな要因だと思います。この受賞は、池田家です。この受賞は、池田家です。」と話していました。

貴宏さんは「今後は、口コミでの販売だけでなく、SNSを活用した販売にも力を入れ、いずれは、通信販売も視野に入れて時代のニーズに合った販売方法を模索していきたいです。また、りんごは自分の子どものような存在です。特に秋田紅あかりは、りんごから伸びるツルが他のりんごよりも短く、収穫の際には傷がつかないように細心の注意が必要です。でも、手間をかけても、良いものができるのであれば、面倒ではありません。今後もおいしいりんごを作り続けていきたいです。」と今後の抱負を語りました。



りんご収穫祭

11月13日に、市役所敷地内に植えられているりんごの収穫祭が行われました。

今年は、尾去沢保育園、八幡平なかよしセンター、杉の下保育園の園児62人が参加し、収穫作業を行いました。

園児たちは、高い所にある大きな実に一生懸命手を伸ばし、それを手にすると歓声を上げて喜んでいました。りんごの試食では、「おいしい」と笑顔を見せていました。

収穫したりんごは、園児らにプレゼントされたほか、市内の福祉施設などに贈呈されました。

きりたんぽ発祥まつり

11月11日の「きりたんぽの日」に合わせ、10日に道の駅かづの「あんたらあ」できりたんぽ発祥まつりが開催されました。

オープニングでは、たんぽ小町ちゃんの誕生日を祝い、保育園児がケーキを贈っていました。

会場には、発祥の地ならではの「山子鍋」をはじめ、さまざまなきりたんぽ鍋が用意され、多くの家族連れでにぎわいました。

